



人類はひとつ 世界中に友情の  
橋をかけよう

MANKIND IS ONE - Build Bridges of Friendship  
Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田晋

出席報告：会員70名 出席52名 出席率74.29% 前回出席率80.00% 修正出席62名 確定出席率88.57%

## ゲストスピーチ

### 老人福祉と家庭奉仕員について

鶴岡市役所福祉課長代理 大川 啓 治 氏



今日は鶴岡市から福祉関係業務をしている私達3人が伝統ある鶴岡ロータリークラブに、ゲストとしてお招きを受けて誠に光栄に存じております。

日頃、当市の福祉行政に対しましては、当クラブの皆様方からいろいろご配慮をいただいております。大変ありがとうございます。今日は『老人福祉と家庭奉仕員』ということで、皆様方にパンフレットをお配りしてありますが、これに基づきまして全般についてお話しし、具体的にはホームヘルパーの2人からお話しいたします。

鶴岡市の昭和50年総人口は95,932人でした。現在は総人口10万を突破しております。高令化時代の到来とともに、その中で65才以上の老人が12,000人もおります。昭和50年当時9,505人だったのが、わずか数年間に12,000人という高令化が進みました。これを人口対比(%)で全国平均と比較してみますと、50年は当市が9.9%で全国平均が7.9%、54年は当市が11.0%で全国平均が8.9%、56年は当市が11.7%で全国平均が9.3%、57年は当市の総人口の12.0%というかなり高い人口対比となっております。当市の最高令者は103才の伊藤鶴さんで、現在大山の友江荘でお元気でいらっしゃいます。ほかに100才の方が2人おります。高令化とともに長寿の方が

増えていることは大変結構なことだと思っております。鶴岡市の各年令別の人口は、90才以上の方は103人おられます。一昔前は90才以上といえば、わずか数人でしたが、現在は100人以上の方が長寿を保っておることになります。

次に、ホームヘルパーと関係のある寝たきりとか一人暮らしの老人の方の数ですが、統計的にみて恐縮ですが、寝たきり老人は毎年120人前後を増えたり減ったりしております。また1人ぐらし老人の方は57年度には838人おられます。これは県内でも山形市の1,000人に次いで大きな数字になっており、1人暮らし老人の多いのは当市の特徴でもあります。老人夫婦世帯は、57年度780世帯で、夫婦ですから人数はこの倍になります。こうして見ましても、老人家庭のあり方が伺われると思います。

続いて家庭奉仕員の状況についてお話しいたします。現在鶴岡市に家庭奉仕員の方は16名おります。法的根拠は「老人福祉法第12条」に市町村は社会福祉法人やその他の団体に対して身体上または精神上の障害があって日常生活を営むのに支障がある老人の家庭に家庭奉仕員を派遣して、その日常生活上の世話をさせることを委託することが出来ると規定されております。実施の主体は鶴岡市、他町村では社会福祉協議会に委託しているところもあります。派遣対象は主に老衰や心身の障害、それに傷病などで寝たきりでいるなど、日常生活を営むのに支障がある大体65才以上の老人のいる家庭で、その家族が老

庄内空港の建設を推進しましょう

人の介護が出来ないような状態にある場合とされております。サービス内容は多彩で、食事の世話や洗濯、部屋の掃除、買物や身の廻りの世話などのほか生活上についての相談・助言まで、こまかに何でもやり、親身になってよく働いております。老人が首を長くして待っているのが、1日も休むことが出来ない状態です。家庭奉仕員16名の訪問内訳は、生活に困っている保護世帯11人、障害者とか老人家庭51人、計61人の世帯に訪問し、活躍しており、家庭奉仕員1人が5～6世帯を担当しております。身分は非常勤特別職となっており、1年更新ですが、長い人は12～13年、短い人でも2～3年は続けており、15年のベテランもおられます。年齢は52～53才で活躍している方もおります。勤務は月曜から金曜まで、午前9時から午後4時まで。午前、午後各1世帯を訪問、1世帯には週2回程度となっております。1世帯の奉仕時間は2時間程度で、午後4時頃に帰り、日誌をつけ退庁という日課です。

このほか、移動入浴車があります。これはねたきり老人の中には1ヶ月も入浴していない方がありまして、入浴車が行くと、手を合わせんばかりに喜ばれます。この移動入浴車に従事している方は2名おり、井上さんもその1人で、看護婦さんとしても活躍しております。家庭奉仕員は、毎日一生懸命親身になって頑張っております。皆様のご協力をよろしく願いいたします。

#### 家庭奉仕員 菅原直子さん



このような席場でお話するのは不慣れなので、うまく出来ませんが、考えてきたこととお話いたします。いま、私たちは16人で仕事をしております。旧市内を廻っているのは9人。移動入浴車担

当が2人、半年か1年交代で取り組んでおります。また、湯田川・湯の浜・三瀬・大山などの各地域を

担当している方が5人、各地区で活躍しております。

1人の担当は5～7世帯、訪問回数は週1～3回の割で廻ります。老人の身体の状況やその他の条件により訪問回数の増減があり、みんなで相談しながら進めております。私たちの役割は、今まで長い人生を一生懸命働いてきた老人達の余世を豊かに過していただくよう努めることだと思います。衣食住あらゆる面でお世話しているわけですが、特に介護の面では「くすり」をもらいに行った時には、医師の方にご協力をいただいております。また変わったことでは、お墓参りの代参や葬式の代理参列をたのまられることもあります。相談や助言なども大きなウエイトを占めております。私の経験ですが、近くに息子さんや娘さんがおられても複雑な事情があるために遺産相続の相談を受け、遺言状の保証人を依頼されおことわりしたこともあります。

私たちが仕事をして1番困るのは、老人の方々の中に記憶力が弱くなっている人がおり、金品が紛失したと疑いをかけられることです。これは大変悲しいことです。しかし私たちは毅然とした態度で対処しております。

また、1人暮らしの老人や老人夫婦など外出することの少ない方々を誘って花見をしたことがあります。大変喜ばれました。嬉しそうな顔を思い出し、またお誘いしたいと思っておりますが、なかなか実現出来ないのであります。お世話した方が息子さんや娘さんに引きとられ、遠くで幸せに暮しているという話を聞くと、ほんとうに嬉しくなります。東京にいる息子さんに引きとられ幸せに暮している老人から不自由な手で、たどたどしい年賀状を毎年いただくのですが、ほんとうにこの仕事をしていてよかったとつくづく思います。対象になっている老人はさまざまな方がおられますので、私たちも勉強して、よりよい仕事が出来よう努力しております。

鶴岡市では毎月1回研修会を開いております。また庄内ブロックや県の研修会にも参加しております。全国的なつながりを持っておりまして、その研修会にも参加、去年は海外研修にも参加して、国際的な

つながりも深めております。また私たちも、訪問する中で、料理の作り方や家事について、老人から学ぶこともあり、やりがいのある仕事だと思っております。老人の方がほんとうに必要なのは、身内の人の心だと思えます。私たちの仕事は、近所の方や民生委員の方、ボランティアの方々のご協力なしにはむずかしい点も多くあります。今後共皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

#### 家庭奉仕員 井上千枝子さん



移動入浴車に従事しておりますので、そのことについてお話いたします。

鶴岡市に移動の入浴車が配置されたのは、山形・米沢・寒河江について4台目になります。一般にはあまり知られてい

ませんでしたし、私たちもどのようにして入浴させるのかわからなかったので、山形市まで見学に行ってきた。帰ってからは、自分たちで入浴車を実際に使ってみました。また、友江荘にお願いし、老人の方三人のご協力を得て、実際に入浴させてもみました。失敗もありましたが、次第に自信もついて、52年4月から運行を開始することになりました。移動入浴車を利用するには、申請書に医師の診断書を添えて社会福祉協議会に提出して許可をもらいます。許可が出ますと、実態調査に伺います。事前訪問では、まず車の置く場所、入浴場所、体の状態など、いろいろお聞きしたりします。車の置く場所と云っても道路端の家とは限らず、小さな小路をやっと入るところとか、寝室が玄関から奥まったところとか、入浴させるにはどうしても3畳程度の広さがほしいのですが、狭かったり、排水場所が離れていたり、いろいろな困難なことを乗り越えなければなりません。運行計画は私たちで作るのですが、4月から11月までは1日3人、12月から3月までは午前1人、午後1人の2人しか出来ません。冬期は湯の温度が

下るので、プロパンガスで沸しながらやるのですが、最高43度位までしか上らず、どうしても時間がかかるからです。

入浴車に従事して6年間感じたこともいろいろありました。当初は7～8年から14～15年も入浴していない老人もいて、ほんとうに喜ばれました。14年も入っていない老人は、孫が夕方風呂に入る音を聞いて、自分も入りたくて泣いていた。入浴出来てこんな嬉しいことはないと言われたこともあります。3～4年入っていない人はかなりおりました。現在では、退院して間もない人とか、病気で1～2ヶ月という人が多くなっております。移動入浴車も一般に知られるようになりました。多勢の人から大変喜ばれております。毎日でも来てほしいとよく云われるのですが、私たちも気を使うことが多くあります。体重が100キロ近い人や、持ち上げると折れそうな細い人までさまざまです。入浴前は体温、血圧、脈はくを調べて入れますが、血圧が高かったり熱があれば主治医の指示を受けます。毎日というわけにはなかなか出来ません。1ヶ月に1回程度廻っております。「温泉に入ったようだ」「生き返ったようだ」と心から喜んでもらえるので、私たちもやりがいのある仕事だと思っております。幸いこれまで1回の事故もなく運行出来てよかったと思えます。これからもよろしく願いいたします。

#### 社会奉仕委員会

山口 篤之助 君

今日は鶴岡市役所の福祉課長代理の大川さんと、家庭奉仕員の菅原さん、井上さんをゲストとしてお迎えし、寝たきり老人や1人暮らし老人のお世話をしているご経験のお話を聞くことにしましたので、よろしく願います。なお日頃のご苦勞に感謝の意を表し、心ばかりの記念品を贈ることに致します。

次年度（1983～1984）

#### 鶴岡 R.C. 人事について

内山 喜一 君

次年度特定委員会のメンバーのご紹介をいたしま



R す。去る3月4日、次年度の理事会を開き、その席上次年度役員並びに特定委員会メンバーの決定をみましたので発表します。なお、理事会メンバーの中で先般幹事に推薦されました三浦悌三君が

都合で辞退されましたので、斎藤隆君に変更になりますからご了承下さい。

次にお手許に配付した名簿の通り、特定委員会に2つの委員会を新設しました。「外部委員会」と「ロータリー資料委員会」です。これは、先般公式訪問の席上石黒ガバナーからのご要請に基づいて新設したものでございます。「外部拡大委員会」の拡大地域は、国道7号線を境にした東側の地域で、クラブ結成の可能な市町村への働きかけ、援助を目的とした委員会でございます。先般、当クラブ主催の「たら汁会」に藤島町の高宮さん（だるまや薬局）をご招待したのも、藤島地区にクラブ結成の核となれることを念じた1つの運動でございました。次に「ロータリー資料委員会」ですが、次年度は当クラブ創立25周年に当たります。これまで事務局の山下さんにご苦勞をかけておりましたが、次年度からこの委員会が積極的に整理に当り、資料を保存・管理することを目的として設けられたものです。以上、簡単ですが、新設の理由をご説明申し上げます。なお、これまでの「雑誌委員会」と「広報委員会」はこれを合併して「雑誌広報委員会」といたしました。理由としては、この2つの委員会は質的面で合併の方がより合理的であろうという判断によるものです。

次に、先程申し上げました創立25周年記念行事を実施するかどうか、その可否についてと、その企画等につきましては期間も十分ありますので、時間を

かけて熟慮のうえ、理事会に図り、ご審議いただく心ぐみでおります。

なお、特定委員会の委員長に、新しい会員の方々の顔ぶれが多く見受けられますが、これは理事会の一致した意見の結果であり、ご活躍のほどをご期待いたします。

以上が次年度の決議事項並びに企画の一端と併せてご報告申し上げた次第です。会員皆様のご理解とご協力・ご支援を心からお願いいたします。

### 会 長 報 告

中 江 亮 君

今日は特にご報告することはありません。『老人福祉とホームヘルパー』についてお話を聞く時間を充分とりました。よろしくお願ひします。

### 幹 事 報 告

迎 田 稔 君

#### ○会報到着

藤沢R.C.・東京R.C.より参っております。

#### ○R.I.第253地区山形県内インターアクトクラブ指導者講習会開催のご案内を7つのクラブ、7つのインターアクトクラブ及び地区ガバナー及び地区インターアクト委員の方々に発送致しました。

日 時 4月24日(日) 午前9時点鐘

場 所 鶴岡市馬場町

鶴岡産業会館5階ホール

出席者 ○スポンサーR.C.

インターアクト委員長 1名

○インターアクトクラブ会員 5名

〃 顧問教師 1名

### ビ ジ タ ー

鶴岡西R.C. 長 野 正 彦 君

井 上 彬 君

(今週の担当者 今 野 精 一)